

生物多様性交流フェアに取り組んで

生環コース：コーディネーター 北尾 進
10月29日の「生物多様性交流フェア」は、卒業生の方々など多くの皆様のご支援と300名のご参加を得て無事終えることが出来ました。本当にありがとうございました。

今回の取組は、シルバーカレッジと神戸市環境局で協働の取組をしようとのお話が以前からあったものを具体化したものでした。でも、不手際もあり、多くの皆様にご迷惑もおかけしてしまいました。申し訳ございません。

この取組の意義は、いくつかありました。一つは、シルバーカレッジを卒業された後も、様々な活動や研究をされている方々が多くおられます。それらを在學生に伝えていただき交流を進める。二つ目は、シルバーカレッジに1人でも多くの市民の皆さんにお越しいただき「生物多様性保全」に対する思いや経験の交流を進め神戸での活動の発展に貢献する。三つ目は、在學生の皆さんの生物多様性についての認識を深め、この活動に1人でも多くの学生の皆さん

が参加するようになっていただきたいということでした。これらについては、「よかった」「卒業生の活動を知ることが出来た」「今日の取組でグループ学習

のチームがまた活気づいた」とかの声も聞かれるように、決して十分ではありませんが、新しい、大切な一歩を踏み出すことは出来たと思います。

でも、課題もたくさん見つかりました。一つは、中身がたくさんあり、少々ご負担をおかけしたようで、多くの方々から「時間がもう少し欲しい」との声があったように、中身の豊富さと時間とのバランスを欠いていたこと。二つ目は、当日に向けてカレッジの授業を効果的に構成できていなかったこと。三つ目は、講師や司会者等の打ち合わせが十分に出来ていなかったこと。四つ目は、「交流会」に在學生の参加が少なかったことでした。

今回経験したことを踏まえて、可能であれば是非とも来年度も「交流フェア」を実施できればと思っています。そして、「カレッジ」を卒業すれば「はい、さようなら」ではなくて、卒業生と在學生、それに市民との交流を広げていく「場」を多様なメンバーが力を合わせて創りたいと考えています。今度は、もう少し時間等をかけて丁寧に……と。



ローリーなどの掲示写真



セッション は「ため池から考える」(17人)。菅田忠志氏(生環11)が司会。大嶋範行氏(環境局)は、兵庫県には4万か所ものため池があり、全国一多いこと。里山や森林と同じく、ため池は動植物の宝庫であるが、近年は荒廃が進んでいることなどを紹介した。田下日順氏(生環10)は藍那地区のため池の保全活動について発表。現役の力を貸してほしいと呼びかけた。

セッション は「ビオトープ活動」(10人)。戸田耿介氏(生環サポーター)が司会。三島隆夫氏(生環8)は、環境未来館のビオトープ(未来の泉)について報告。6年前に建設する際は盛り上がったが、世話をしたり、外来種を駆除したりする維持管理が

むずかしい。小学校にあるビオトープの支援に乗り出したい、などと語った。金下玲子氏(阪神・都市ビオトープフォーラム)が小中学校111校にあるビオトープの現状・活用について紹介した。

セッション は「環境教育」(39人)で松本朱実氏(動物教材研究所)が司会。南形徹氏(生環14)はグループ学習で制作した子供向けのお話ビデオ「ノリカちゃんとコウノトリ」を上映、食育の大切さを訴えた。藤原昭宏・高島忠義氏(生13)は身近な野草を採取して作った図鑑や野草カルタを披露。西谷寛氏(市職員)は「空と海の約束」という絵本を自費出版し、保育所や児童館に寄贈する自らの活動を紹介した。(取材とまとめは、広報・南形徹)